

手首式家庭血圧計と上腕式家庭血圧計による夜間血圧測定に対する患者の認容性およびデータ取得率の検討

Patients' acceptability and data acquisition rate for nighttime BP measurement by wrist-type and upper arm-type home BP monitoring devices

富谷 奈穂子

自治医科大学 内科学講座循環器内科学部門

【目的】 測定時のカフの圧迫や測定音が低減された、最新の手首式血圧計（NightView*）を用いた研究データと、従来の上腕式血圧計を用いた研究データを比較し、家庭夜間血圧測定に対する患者の認容性とデータ取得率について比較検討した。

【方法】 1) 手首式血圧計(NightView*)で7日間夜間測定(2:00, 3:00, 4:00,就寝4時間後)したWISDOM研究の手首血圧データ126例と、上腕式血圧計(HEM-7252G-HP*)で7日間測定(2:00, 3:00, 4:00)したCONDITION研究の上腕血圧データ48例を比較した。

2) 50例の被験者に手首式血圧計と上腕式血圧計(HEM-9700T*)を同時装着し、夜間1時間毎の測定を2晩行った研究データを用いて、手首夜間血圧測定と上腕夜間血圧測定を比較した。

【結果】 1) 手首夜間測定については、1～5日目は被験者全体の90%以上が夜間測定を実施しており、7日目においても実施率は66.7%であった。上腕夜間測定については、1～4日目は全体の90%以上が実施していたが、7日目は実施率が47.9%と半分以下に低下していた。

2) 2晩の全測定データのうち、手首血圧計は4.9% (40/815測定)、上腕血圧計は2.0%(16/786測定)が測定エラーとなり血圧値が計測できなかった。

【結論】 手首式、上腕式のいずれの夜間血圧測定も患者の認容性が確認できたが、長期間の測定では手首夜間測定の方が好まれるかもしれない。測定エラー頻度の違いから、上腕に比較し、手首式血圧計の方が睡眠中の体動の影響を受けやすい可能性が示唆された。

*オムロンヘルスケア社製